

じょうようのふくし

城陽市社協
マスコット



社協だより

～あの人の幸せを 私の幸せに～

共同募金配分金で作成しています



城陽市社協HP



城陽市社協MAP

発行
社会福祉法人 城陽市社会福祉協議会
城陽市寺田東ノ口17 福祉センター1階

TEL 0774(56)0909
FAX 0774(56)2800
<http://www.kyoshakyo.or.jp/joyo/>

令和4年春発行
第139号



パラリンピックでも大注目!!

ボッチャの無料貸出始めました!

城陽市社会福祉協議会では、車イスやレクリエーション用具などを無料で貸出しています。今年度は、新たに「ボッチャ」の用具を準備しました。東京2020パラリンピックでメダル獲得となり、話題となった「ボッチャ」。城陽市ボッチャ協会会長の塚脇康宏氏にボッチャについてお話を伺いました。



ボッチャは、ジャックボールと呼ばれる白いボールにどれだけ自分たちのボールを近づけられるかを競うスポーツです。障がいの有無や年齢、性別に関係なく誰もが楽しめるスポーツです。



やってみたくけれど、ルールや取り組み方法がわからないという方も安心してください!塚脇氏よりレクチャーいただけるとのお話をいただいています。

まずは、城陽市社会福祉協議会(0774-56-0909)までご連絡ください。

他にもたくさん貸出備品をご準備していますので、地域でのつながりづくりにぜひご活用ください。

次ページ以降は第43回城陽市社会福祉大会の受賞者の紹介および
第16回児童・生徒の福祉作文コンクールの最優秀賞作文を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



第43回 城陽市社会福祉大会 表彰者報告

日頃から福祉活動に貢献されている方々が城陽市長表彰をはじめ、城陽市社会福祉協議会会長表彰ならびに感謝状を受賞されたことをご報告致します。今年度は、40名の個人と19の団体の表彰がありました。

順不同・敬称略、()内は推薦団体

1 城陽市長表彰(4名)

●社会福祉事業功労者(4名)

音瀬 里美 (久津川校区社協)	猪田 義春 (深谷校区社協)
宇野 芳男 (今池校区社協)	安田 行雄 (市社協)

2 城陽市社会福祉協議会会長表彰(14名)

●社会福祉事業功労者(14名)

奥田 朱美 (久世校区社協)	一瀬 裕子 (深谷校区社協)
野田 章子 (今池校区社協)	北窪 大輔 (和光会)
藤井 正剛 (和光会)	谷垣 博紀 (和光会)
谷村 邦子 (府立心障センター)	小林 靖尚 (青谷学園)
東中 良子 (青谷学園)	井上 善博 (青谷学園)
古川 喜美江 (V連協)	山崎 玲子 (V連協)
坂上 馨 (市社協)	中村 俊雄 (市社協)

3 城陽市社会福祉協議会会長感謝状(22名 19団体)

●社会福祉事業奉仕者 個人(18名)

岡村 千佳子 (久津川校区社協)	村山 道子 (久世校区社協)
井上 睦子 (深谷校区社協)	田中 紀夫 (深谷校区社協)
伊藤 慎一 (深谷校区社協)	山中 克美 (寺田南校区社協)
小石 実 (今池校区社協)	宮崎 イチコ (今池校区社協)
石原 章子 (市社協)	木佐一 憲治 (市社協)
吉村 英基 (市社協)	鱒坂 智子 (民児協(寺田西))
吉岡 信和 (V連協)	奥田 治子 (V連協)
和多田 美津子 (V連協)	林 文子 (V連協)
大塚 和代 (V連協)	匿名 1名

●社会福祉事業奉仕者 団体(16団体)

グラン・ドマーレ久津川自治会	平川西部自治会
梅の里自治会	西六反自治会
八丁自治会	下大谷自治会
城陽団地自治会	桜ヶ丘自治会
城陽南第二自治会	北東西自治会
さくらえん自治会	たんぼぼ自治会
水度坂自治会	富の里自治会
府営水主団地自治会	大和苑自治会

●社会福祉事業奉仕者 大口寄付(4名 3団体)

森本 弘	山田 宏枝
小林 保夫	木田 慶子
京都城陽ロータリークラブ	京都府遊技業協同組合
関西遊技機商業協同組合	



※第43回城陽市社会福祉大会式典は1月29日(土)に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止しました。

第16回 児童・生徒の福祉作文 最優秀賞

市内・小中学校から福祉に関わる優れた作品を提出いただき、
市社協で最優秀賞に選んだ作品を紹介いたします。

「オリンピックから学んだこと」 久世小学校 6年 中森 美鈴さん



今年の夏、東京でオリンピック、パラリンピックが開催されました。今回のオリンピック、パラリンピックは、新型コロナウイルスの影響により、一年間の延期、そして無観客開催になるという、今までにないオリンピック、パラリンピックとなりました。私は、毎日テレビを見て、「日本頑張れ。」と応援していました。テレビごしでしたが、私の応援が通じたのか、選手たちは、オリンピックでは今までにない数のメダルをとることができました。私は、テレビでオリンピックを見ていて、選手の活躍に心が打たれる一方で、ある外国人選手が、「日本は、すばらしい国だ。ボランティアの方に感謝したい。」と言っていた言葉が、すごく心にひびきました。私は、オリンピックで、どのようなボランティア活動がされているのか、興味を持ち調べたところ、競技会場や選手村、関連施設で各国の選手やメディアの人に対して、いろいろなサポートをしていること



を知りました。私は、このような人々がいたからこそ、今回のオリンピックは成功したのだと思いました。

オリンピックは、平和の祭典です。そして、今回のオリンピックは、「復興五輪」と名付けられていました。平成二十三年、東北で大震災が起き、街がこわれ、多くの人々が亡くなりました。今回このオリンピックには、「この大震災から立ち直った日本の姿を世界に見せたい!」という強いメッセージがこめられているのだと思います。

OLYMPICS



東日本大震災のときも、多くのボランティアの人々が被災地の復興のために活やくをしたという話を家族から聞きました。だからこそ、今の日本があると教えてもらいました。「世の中のために働きたい。」「人のために働きたい。」「困っている人を助けたい。」という気持ちこそがボランティアの人たちが持っている精神だと思います。

私たちが住んでいる社会は、人が人を助け合っていることで、成り立っているのだと思います。今回のオリンピックを通じて、私は、ボランティア活動の大切さを学ぶことができたと思います。

私は、今までボランティア活動などをあまりしたことがありませんでした。「目の前の困っている人を助ける」ことは何気ないことですが、すごく勇気のいる行動なのだと思います。しかし、その勇気が「世の中のため、人のためになる。」ということ絶対に忘れず、これから生きていきたいと思います。まずは、「周りの困っている人の力になる」「大変そうな人がいたら助ける」などといった身近なところから、自分自身でできることを探し、実践していきたいと思います。そして、その行動が、誰かの心を動かして、人が人を助け合える社会になることを信じています。新型コロナウイルスの影響で、様々なことが制限される世の中ですが、世界中の人々の気持ちや心だけはつながっている、そんな世の中にしていきたいです。そして、そのために何をしたらよいのか、何から始めていったらよいのかをしっかりと考えて、これからの毎日を過ごしていきたいと思います。



「みんなが安心して住める社会へ」

青谷小学校 6年
野路 陽希さん



多くの兄は障がいがあります。どういう障がいかというと、生まれつき筋力が弱く自分で立ったり歩いたり、食べたり話したりすることができません。のどの筋肉も弱いため、さらさらのお茶やジュースなどを飲むと、誤えんして肺に入ってしまう、むせることがよく起こります。車に乗っている時は、一人でバランスを保って座っていることが難しいため、胸ベルトと腰ベルトのついた専用のシートに座っています。外に出る時は、車イスに乗って後ろから誰かに押してもらい移動します。



このような状態ですが、一緒に楽しめることがたくさんあります。例えば、旅行で海やプール、ディズニーランドなどの遊園地やテーマパークなどに家族みんなで行くことができました。旅行途中、パーキングエリアや新幹線の個室や旅先のトイレには、多目的ベッドの付いたトイレが整備されていました。ホテルなどの宿泊施設の温泉に、お風呂用のぬれてもいい車イスが用意してありました。レストランなどで、食べることができない料理の形状をきざみ食に変えてほしいとお願いすると、ころよく対応してくれました。このように

障がい者にとっても介助者にとっても外出しやすい設備やお店の人のやさしい対応があったからこそ、障がいがあっても安心して旅行することが出来ました。



また、ふだんは支援学校に通学していますが、放課後や夏休みなどは、放課後デイサービスで友達と遊んだりおやつを大人といっしょに作ったりして過ごしています。それは福祉サービスを行ってくれているおかげです。



兄は顔の筋肉も弱く普段無表情だけど、自分が楽しい時や周りが楽しい雰囲気になっている時は、笑顔を見せたり短い声を出したりしてうれしさをアピールします。



その時は僕も、心がなごみます。周りにいるみんなもと

ても、心がなごみます。みんなが笑顔になります。



僕が生まれた時から兄はいるので、兄の生活の介助は僕の中ではあたりまえのことです。だけど介助をしていると、もっとここを変えてほしいなと思うことがあります。例えば、車イスが通れないようなせまい歩道や段差などは、介助者がいればなんとかありますが、一人で車イスを使って移動する人にとっては回り道をしなければならないので、不便です。また、階段しかないお店や駅などは利用したくても利用することができないので、不便です。だから、僕は一人で車イス生活をしている人も不便を感じなくていいように、今後歩道を広げたり、スロープやエレベーターなどの設備を整えていきたいです。そのために福祉に関係する人達と交流し知らないことについてもっと学んでいきたいです。



「だれもが生きやすい社会へ」

北城陽中学校 1年
梅原 結衣さん



みなさんは、「障害者」と聞いたら、どんなことを思い浮かべますか。目が見えない・見えにくいなどの不自由がある、「視覚障害者」の方、音が聞こえない・聞こえにくい不自由がある、「聴覚障害者」の方など、世界には、色々な不自由の中で暮らしている「障害者」の方がたくさんおられます。ところが、私たち障害のない、いわゆる「健常者」たちが、障害のある人への偏見や先入観で、差別をしたり、障害について知らないままでもいいということではならないことだと私は考えます。なぜなら、健常者も障害者も皆同じ人間で同じ社会で生活している以上、お互いのことを理解し合う必要があるのではないかと思います。私は、実際に経験した出来事を通して、障害のある人が、安心・安全に生活するために、私たちができることを述べていきたいと思っています。



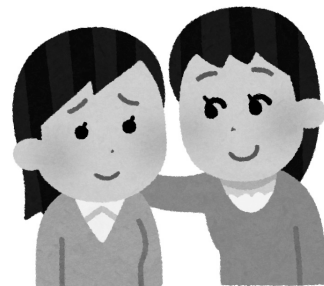
私が小学校に通っていた頃、学校には、「つばさ学級」という特別支援学級がありました。つばさ学級は、一組ずつが三～四人程度の少人数の学級で、生徒の特性に合わせて、クラスが編成されています。生徒は普通学級で授



業を受けながら、個人差はありますが、週に数回つばさ学級で、「自立活動」などの特別な授業を受けていました。私は、つばさ学級に通っていなかったため、学校行事や特別活動などでしか、つばさ学級の友達と関わることはほとんどありませんでした。しかし、小学五年生になった時、掃除当番に「つばさ学級の掃除のお手伝い」というものが増えました。私は、新しい友達と、掃除ができるので、楽しみな反面、今まで障害のある子とあまり関わったことがなく、「どのように接すればいいのだろう。」という不安な気持ちが大きかったです。障害のある人への偏見というのがどこかであったのだと思います。でも、実際に掃除に行くと、私が想像しているものと全く違う光景がありました。すぐ一生懸命掃除をする姿、初対面の私に気さくに話しかける優しさがありました。そして、掃除が終わった後、笑顔で「ありがとう」と言ってくれました。私のもっていたイメージとはかけ離れているものでした。

★ありがとう!★

この経験を通じて、私が障害のある人に、私たちができることは、障害のある人への先入観や偏見をもたないことだと思いました。障害のある人への差別や偏見の無理解は、「心のバリア」だと思います。「かわいそう」「自分には関係ない」など、こういったバリアに自分自身が気づき、そして取り除くことは、お互いの人格や個性を尊重し差別や偏見などを解消することにつながると思います。「心のバリアを取り除くのが難しい」と思う人がいるかもしれませんが、心のバリアを取り除くことは、障害の有無関係なくみんなが快適に過ごせる社会には必要不可欠だということが少しずつ広まれば嬉しいです。



このようなことから、私たちにできることは、障害のある人への偏見・先入観を持たず、「心のバリア」を取り除くことです。みんなが心のバリアを取り除くことができれば、障害のある人も、障害のない人も、お互いのことを理解し、尊重し、安心・安全に暮らすことができる明るい社会になるのではないのでしょうか。私自身ももっと障害について学んでいきたいと思いません。

「思いやりとは」

東城陽中学校 1年
溝上 音舞さん



福祉とは、しあわせ。幸福。特に、生活の安定や充足。また、人々の幸福で安定した生活を公的に達成しようとする事です。私は、身の回りにたくさんある、思いやりについて考えてみました。

思いやりとは、他人の気持ちに配慮し、相手が何を望みどんな気持ちかを注意深く考えて接することや、相手の身になって考えたり推察して気遣いをしたりすることです。思いやりの無い人しかいない世界に生きていたら、きっと誰とも話したくなくなったり、冷たい言葉ばかり浴びせられてストレスが溜まってしまうと思います。



例えば、今、新型コロナウイルス感染症が流行っています。感染した人に対して、心無い言葉をかけたりしている人がたくさんいます。感染してしまった人は、熱などがでてしんどい思いをしているかもしれないのに、暴言を吐いてしまっているのでしょうか。そもそもコロナウイルスはしっかり対策をしても、感染してしまう場合があります。つまり、いつ自分が感染するか分からないということです。感染したくて感染しているわけではないのに、悪口を言われたら誰だって嫌な気持ちに

なると思います。相手の立場になって考え、言動にブレーキをかけること、人を思いやる心を持つことが大切です。



以前友達とけんかをしたことがあります。私は自覚が無かったのですが、友達にしたら嫌なことを言ってしまって、友達との間がギスギスしてしまいました。友達は怒っていて私に対して冷たく接したり、たくさんしゃべっていたのに、急にあまりしゃべらなくなりました。私は、本当に自分が悪いことをしてしまったという自覚がありませんでした。だからこそ、原因が分からずに友達との心の距離が離れていくのが悲しかったです。自分自身も何が悪いのかが分からなかったので、理由もわからず怒っていました。どうしてこんなにならなければならないのか、もし自分に原因があるのなら態度ではなく、口で言ってくれればいいのに、どうして言ってくれないのか。色々な感情が混ざって不安定になりました。しかし私にとってその友達は大切な存在だったので、諦められませんでした。勇気をふりしぼって原因を聞いてみました。友達は、私と言われても傷つくようなことでは無いことで怒っていたので

驚きました。

その時私は気づいたのです。友達が言われて嫌なことが、必ずしも自分も嫌とは限らないということ。逆に自分が言われて嫌なことが、必ずしも友達も嫌とは限らないということ。私は、今まで相手に何かを話す時は、自分が言われて嫌じゃないか考えてから発言していました。それが正解だと、思いやりだと思っていたからです。けどそれは違いました。ただ相手を自分と置き換え、傷つかないか考えるだけではなく、自分が言われても傷つかないが、相手は傷つくかもしれないということをふまえて考えることが「思いやり」だということに気づけました。



私はこの経験を通して、コロナウイルスに感染してしまった人に心無い言葉を浴びせるのではなく、はげましの言葉をかけてあげるなど、互いに思いやるのが今のコロナ社会には必要だと思います。身の周りの人だけでなく、自分自身も大きく変えることのできる思いやりの心。そんな素晴らしい心を世界中の人々、全てが持つことができれば、争いがない、優しい世界になると思います。優しい世界にできるよう、私も思いやりの心を忘れずに生きていこうと思いました。

本会へのご寄付ありがとうございました

(R3.12.1~R4.1.31)【敬称略】

●今池コミュニティセンター運営委員会	車いす1台
●木田 慶子	50,000円
●八久城地区自動車整備協議会	30,000円
●関西遊技機商業協同組合	車いす1台、クッション
●匿名	栄養調整食品7ケース

ご寄付いただきました車いすは市民の方への貸出や市内小中学生の福祉学習の場などに活用させていただきます。また、寄付金は地域福祉活動の推進、栄養調整食品は介護事業等で活用させていただきます。今後とも、ご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

